



第13回

静岡県青少年赤十字

100文字作文コンクール



はじめに

青少年赤十字は、赤十字の精神に基づき、「子どもたちが、やさしさと思いやりの心を育むとともに、主体的に行動できる子どもたちを育成すること」を目的とした事業です。

その一環として、今年度も本コンクールを実施し、児童・生徒を対象に次のテーマで「短作文（100文字作文）」、原稿用紙3枚程度の「作文」を、園児を対象に「ハートラちゃんのお絵かき」を募集しました。

テーマ

「いのちや健康の大切さについて体験したことなどを
通じて感じたこと、考えたこと」

「何かをやり遂げた時に感じたこと、考えたこと」

「誰かのために自分ができること」

「青少年赤十字文庫を読んで感じたこと、考えたこと」

その結果、「短作文部門」では41校1,355点、「作文部門」では8校46点、「ハートラちゃんのお絵かき部門」では3園59点の応募をいただきました。

この度、入賞作品を、作品集としてまとめました。そこに表現された一人ひとりの素直な思いや生き生きとした姿を感じていただければ幸いです。

今後も、作品に込められたやさしさと思いやりの心を大切に、時代の変化に即して、一人ひとりが、「気づき」「考え」「実行」していくことを期待しています。

応募にあたり、ご指導いただきました先生方、見守ってくださいただご家族の皆様、審査いただきました選考委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

日本赤十字社静岡県支部

最優秀賞（小学生）

「命の最後」

富士市立今泉小学校 六年

山田陽斗

曾祖母が亡くなった。ぼくが思っていた「命の最後」
はとても暗いイメージだったけれど、そこにはおばあ
ちゃんの思い出を語り合う、みんなの優しい笑顔が
あった。おばあちゃんの命はぼくたちの心の中に、温か
く生き続けている。

選考委員による講評

おばあちゃんの死を「命の最後」と表現し、人の死を暗いものと思ってい
た山田さん。大切な人とのお別れ場で、おばあちゃんの優しさや温かさ
に触れ、死は終わりではなく、人の命のつながりを感じたことでしょう。感
情を見事に表現しています。



「8月6日」

焼津市立焼津中学校 三年

貝原 芳奈

8月6日に手を合わせ目をつむる。2度と繰り返さないように…。

私は小学6年の夏まで広島県に住んでいた。79年前のこの日、たくさんの光が空から降ってきた。

たくさん笑顔が消えたこの日。私は手を合わせ、目をつむる。

選考委員による講評

広島で育った貝原さん。この日の重みをよく理解されていることが伝わってきます。戦争のない世を願っても、今日もまた、世界のどこかで悲しい涙が流れています。悲劇を二度と繰り返すまいとする、若い世代の頼もしさを感じました。

最優秀賞（高校生）

「病院での出来事」

静岡県立田方農業高等学校 三年

駿藤 幸花

私は親戚のお見舞いで病院へ行った。その時廊下で泣きながら電話をしている男性が目に残った。少し気になり、私は会話に耳を傾けた。「元気に産まれたよ！」男性は泣いていたけどすごく笑顔だった。病院には幸せな涙もあることを知った。

選考委員による講評

見知らぬ男性が泣いているのを心配する心の優しさを持った駿藤さん。幸せな涙を目の当たりにし、命がこの世に生まれることの喜びを自分のこととして感じ、それを言葉にしてくれたことをうれしく思います。

有功会長賞（小学生）

「やさしさをつなげる」

沼津市立開北小学校 四年 武井 佳音

わたしが一年生のとき、四年生のお姉ちゃんが手をつないでいっしょに学校に行ってくれた。安心してすごくうれしかった。だから今度は自分が一年生といっしょに行きたい。やさしさをつなげるという意味が、だんだん分かってきたよ。

有功会長賞（中学生）

「私にだってできること」

掛川市立大浜中学校 二年 市川 春乃

夏休みに朝ご飯を作ってみた。台所が信じられない程暑かった。いつもご飯を食べる時部屋の温度は快適だった。自分の気付いていない所で家族の為に頑張ってくれている人が居る事に気がついた。まずは一緒にご飯を作ってみようと思う。

有功会長賞（高校生）

「二〇二三年夏 帰省」

静岡県立浜名高等学校 一年 西尾 航平

迎えに来た祖父の背丈は僕より低くなっていた。元
気だったかと肩を叩く手も並んで歩く歩幅も僕の方
が大きく、そつと歩くスピードを緩めた。背中を支え
ようとしたけれど、おんぶしてくれた頃と変わらぬ頼
もしさに僕の手は行き場を失った。

事務局長賞（小学生）

「葉に変わった返事」

沼津市立戸田小中二貫学校 六年 山田 桃子

じいじは夏に腰を骨折して一ヶ月も入院し力仕事
が出来なかった。「洗たくもんを取りこんでや」と宿
題中の私に言ったので「いいよ」と返事した。

じいじはとても喜び私も「返事が葉に変わった」と
うれしかった。

事務局長賞（中学生）

「今の自分にできること」

富士市立吉原第二中学校 一年 丸山 柚奈

学校で募金のチラシが配られた。募金活動が中学生の私の身近に感じた。百円玉で病氣と戦う力を強める薬三十三個分が買えると知り、二百円寄付した。この二百円で一人でも多くの子ども達を救えるよう願って。私にも救える命がある。

事務局長賞（高校生）

「患者さんの為に」

相川学園 静清高等学校 一年 引地 詩佳

看護師の体験説明会でのベットメイキング、しわを伸ばして患者さんが不快に感じない心地よい環境作り。意外と難しくどうしてもよれたりしわが出来てしまう。これを意図も容易く行う看護師さん。地味な仕事と思っ
てはいけないと感じた。

「笑顔の朝」

沼津市立開北小学校 五年

齋藤 美月

気持ちのよい挨拶をすると、みんなが笑顔になる。挨拶はよい朝の始まり。元気がなかった朝、友達が大きな声で挨拶してくれた。私は思わず、笑顔で、
「おはよう。」
と返した。挨拶はみんなの心にエネルギーを与える大切なこと。

「ぼくのエレベーターのボタンがかり。」

富士市立今泉小学校 二年

渡邊 煌大

ぼくは、エレベーターでボタンがかりをするよ。小さい子、お年よ。いろんな人がつかう。けがをしないように気をつけるよ。ありがとうって言われるとはずかしいけど、うれしい。それが、だれかのやくに立つてことだと思った。

「命を大切にしよう」

富士市立吉原第二小学校 六年

浅井 望来

とつぜんおじいちゃんがこの世を去った。これまで元気だったおじいちゃんの死は、驚きとショックで心が大変なことになった。涙もたくさんあふれ出た。おじいちゃんの死から改めて命の大切さを考えた。

「ぼくに出きるいこ」

富士市立今泉小学校 四年

海老原 颯

帰ると、母がいなかった。祖母の「ママが入院した。」の言葉に、もう会えないかもと悲しい気持ちが続いた。お見まいに行くと病院の人達が母の命を助けてくれていた。その人達に感謝し、今度はぼく達の健康はぼくが守る。

「だれかの力になりたい」

静岡市立清水興津小学校 五年

山本 千聖

学校帰り、店の前を通った時困っているお年寄りがいた。値段が見えなかったようので教えてあげると、とても喜んでくれた。私に出来る事が人のためになったと実感した。小さな力を大きな力に変えられる大人になりたい。

「ぼくのたいせつなとり」

静岡サレジオ小学校 一年

鈴木 富三

ぼくのいえには、みどりというなまえのとりがいます。ぼくは、みどりのみずをかえたり、だいすきなひまわりのたねをあげたりします。みどりがいつまでも、ぼくのそばにいて、ずっといっしょにすごせるように、これからはがんばります。

「私の、仲間のメダカ」

静岡市立清水宍原小学校 五年

望月 虹奈

理科の授業で、近所の人からもらった五十匹以上のメダカを育てることになった。でも育てる五年生は私一人だ。

最初、急に三、四匹死んだ。もつと死ぬかと怖かった。毎日えさをあげ、通るたびに無事か見た。すると卵がついていた。やったー。

「ひとりじゃない」

静岡市立田町小学校 六年

山岸 然

となりの席の子とケンカした。次の日から、学校に行くことがとても不安になった。

そんなぼくを見て両親や先生、友達がたくさん声をかけてくれた。ぼくの不安な気持ちほだんだんと消えていき、今は楽しく学校に行っています。



「小児科の先生」

静岡市立田町小学校 五年

小林 篤生

病院なのに、ほつとするよ。いつもやさしい先生が「つらいよね。でも大丈夫だよ。」と言ってくれるから。本当に治ったような気持ちで安心して。いつもありがとう。

「幸せな日々の食事」

焼津市立焼津西小学校 五年

内田 彩七

私達は毎日当たり前のよう楽しく家族と食事をしている。朝、昼、ばん、三食ずつ。でも食事は世界の国々の一部では当たり前じゃない。この事を知った私は、一口を大切にかみしめている。

「やさしさは最高の治りよう薬」

焼津市立豊田小学校 六年

平井 千裕

ぼくは一年生の夏、小児がんになった。病気の事を知った時、ぼくはもう死ぬのかと悟った。でも、がんを治療する為に大勢の人が関わってくれた。やさしくしてくれた。完治し退院した時、やさしさは人を救う事ができると実感した。

「いのちのぼしよ」

焼津市立大井川西小学校 二年

古田 琴子

山女魚をつった。はりがのとやはぐきにささっていた。にぎるとあばれた。しばらくしたら、体をよせあつて止まった。やいて食べた。ひとみが白かった。ふわつと味がしみ出た。山女魚の命は、ずっと私のおなかの中にある。

「おともだちができた」

焼津市立焼津南小学校一年

後藤 湊

ぼくがうれしかったことは、おともだちができたことです。みなとにあるこうえんにクラスでむしとりをしにいったとき、ちいさいカマキリをあげてともだちになった。

これからずっとなかよくいたいな。

「家族のためになれること」

藤枝市立朝比奈第二小学校五年

前島 唯菜

「今日もせんたくの取りこみいやだな。」

これは、私の毎日の家の仕事です。友達と遊びたい日もあるけれど、家族のために家に帰るとすぐに働きます。お父さんの「ありがとう」の言葉はパワーになります。

「わたしにもできるんだ!」

焼津市立港小学校四年

遠藤 楓

世界には、こんなにもなん民と言われる人たちがいるのだと知ってびっくりした。

家や家族を失ってしまった悲しさを、服のチカラで元気にしてあげたい。わたしにも世界の子どもだちをすくうことができるんだ!

「大切な妹」

牧之原市立相良小学校三年

戸塚 汐莉

3月18日妹が生まれた日。

お母さんがたいいんして、妹がはじめて家に来たとき、わたしは、妹の指をさわった。

そしたら妹がわたしの指をやさしくつかんでくれた。

その日わたしは、命は、大切だなとした。

「勇気を出して」

牧之原市立坂部小学校 六年

福代 夏芽

私は、修学旅行に行く時

「どうぞ、座ってください。」

とゆずる場面をよく見かける。け

れど私はゆずることができない。

ある日勇気を出してゆずってあ

げた。すると

「ありがとう。」

その一言でうれしくなった。

「生きているのは、当たり前じゃない」

牧之原市立坂部小学校 六年

関 いつき

いつも当たり前のように生きて

いる私達。その中にいる私の目に

あるニュースが映った。それは戦

争のニュース。だから私は、

「生きていることは当たり前じゃ

ない」

と思い自分が生きている一日一日

を大切にしようと誓った。

「言葉の分かれ道」

牧之原市立坂部小学校 六年

吉添 莉美

言葉を選ぶのは難しい。人を

安心させたり、喜ばせたりもで

きる。でも言葉を使って武器にす

ることもできる。言葉を使つて

人を傷つけることもできる。そ

んな私は言葉を選び、人生を良

い方向へと歩んで行く。それが言

葉の分かれ道。

「いのちや健康の大切さ」

牧之原市地頭方小学校 六年

鈴木 凜

私は、大切に育ててくれた父と

母に感謝をしながら生きていま

す。自転車にのる時はヘルメット

をかぶるだけでなくあごひもま

でつけることで少しでも命が助か

ります。この命をくれた父と母に

感謝して二つしかない命を大切に

していきたいです。

「ぼうさいたいけんをふりかえって」

学校組合立牧之原小学校 六年

水野 太智

ぼくは、防災体験を通して、どんなにおおきな災害が来ても、次にその体験を生かしてそなえることの大切さを知りました。過去は変えられなくても未来につなぐことはできるから、前にあったことを見なおすことが大切だと感じました。

「じしんからのちをまもりたい」

掛川市立第一小学校 二年

藤森 広成

八月八日、南海トラフじしんりんじじょうぼうが出た時、とうとうしずおかに大じしんが来ると思いました。

夏は、げんかんにサンダルしかおいていないので、す早くにげられるように、ぼくはうんどうぐつを出しました。

「かぞくのために、ぼくができること」

島田市立島田第四小学校 二年

久保田 大輝

ぼくは、三人かぞくです。おとうさんとおかあさんは、いつもいそがしそうです。ぼくもかぞくの一人なので、みんながこまっていたら、

「なにか手つだうことある？」

とききます。かぞくはチームです。

「自分が幸せだと感じた時」

浜松市立北浜小学校 六年

小杉 心蘭

私は、どんな時に幸せを感じるんだろう。そんな風に考えると、意外に小さい出来事が幸せに感じる。

例えば、だれかにほめられた時、きれいな景色を見た時など、思っていた幸せとは少しちがうかもしれない、だけどこれが私の幸せ。



「小さなことからこつこつと」

浜松市立伎倍小学校 五年

神谷 美緒

私は、一年ぐらい前から見つけたゴミを拾うように心がけています。なぜかというと、地球を守りたいからです。小さいことかもしれないけど、今の自分にできることを少しずつやって未来の人のために美しい地球を残していきたいです。

「ぼくのいとい」

浜松市立赤佐小学校 三年

町田 有

おばさんに赤ちゃんが生まれました。小さくてとてもかわいいです。だっこするとみんなが、「落としちゃいかんに。」と言います。とっても大切なので、むねにしっかりとつけて大事にだっこしています。

「平和の大切さ」

浜松市立伎倍小学校 五年

高林 真宏

広島平和記念資料館で、多くの尊い命が奪われたことを知った。戦争は絶対にしてはならないと思ったのと同時に、今、大好きな家族と生活できていることのあるありがたさを実感した。平和を当たり前と思わず一日一日を大切にすごして生きたい。

「なくなればいいのに」

浜松市立赤佐小学校 五年

竹内 慎太朗

夏休みに、広島にある原爆くドームと平和記念資料館へ行った。ぼくは、こわくて悲しくて泣いてしまった。たくさんの人達の生きたかった気持ちを感じ、そこには笑顔なんてなかった。戦争なんてなくなればいいのに。

「金メダルよりも大切なもの」

浜松市立相生小学校三年

赤堀 結空

パリオリンピックで、パレスチナのせん手が、

「メダルよりも、ぼくは一人の人間なんだ、ということの世界にたえたい。」

と言っていた。

わたしは、世界中の国が金メダル以上のしあわせをつかんでほしいと思った。

「一生懸命」

三島市立中郷西中学校二年

大河 芹

ポスターの宿題を終わらせた。すごく大変だったけど「たのしかったな」と思えた。来年は受験生でポスターを描くことはきつとないから一生懸命やつてよかったなと思った。これからも一生懸命頑張ろうと思えた。

「二億四千万人のために」

三島市立北上中学校三年

本間 弘樹

世界では二億四千万人もの子供が教育を受けられていない。特にアフリカで深刻な状況になっている。それには経済や環境の面が深く関わっていると分かっている。団体やボランティアだけでなく、自分達も支援をすることが大切である。

「JRCの日で救う命」

富士市立吉原第二中学校三年

笹井 咲良

私の通う中学校には、毎月JRCの日がある。アルミ缶はお金にして募金、エコキャップはワクチンにして、人に役立たせている。小さなことだが、私やJRC参加者は、人の命を守っている。この積み重ねを大切にしていきたい。



「幸せの感じ方」

焼津市立焼津中学校 三年

松永 希咲

私は自分の人生をより幸せにしたい。

ときには、人から幸せをもらって、その分自分も人に幸せをあげられるようにしたい。

当たり前を当たり前と思わず、有難さを感じ、生きていることの幸せを感じたい。

「命をつなげる」

焼津市立焼津中学校 三年

望月 彩里

「もうお腹いっぱい。」

妹がハンバーグを残そうとする。「もったいないよ。」と声をかけ、もう少し食べさせる。

動物から命を奪って私たちは生きている。一口分も無駄にしないよう、感謝をこめて明日に命をつないでいきたい。

「平和な未来へ」

焼津市立焼津中学校 三年

溝口 希蹟

能登半島地震で命を失った人。被害を受けた人を多く見た。

命は尊いものであるにも関わらず、一瞬にしてなくなってしまう弱いものだ。今あるできごとを次世代につなげていくことが大切だと感じた。

「私ができる小さなこと」

藤枝市立広幡中学校 二年

石橋 英依

私は、夏休みに小学生の児童クラブのボランティアに参加しました。たくさんの子が遊んでくれて心が暖かくなりました。ボランティアに参加すれば、人の役に立つことができるし、私も笑顔になる、また参加したいと強く思いました。

「散歩で町をきれいに」

藤枝市立広幡中学校一年

池ヶ谷 正真

僕は、小学生の時から地域のゴミ拾いをしています。ゴミ拾いをするきっかけは犬が散歩中にゴミをなめていて危険だと思ったからです。「ありがとう」と言われたり、地域が綺麗になったりする事にやりがいを感じます。今後も続けていきます。

「希望の「君の椅子」から考えたこと」

藤枝市立葉梨中学校三年

山岸 優斗

僕は、多くの人に支えられ、今があると授業で改めて実感しました。僕は、そんな人達の思いに応えて、これからの生活を頑張りたい、いつか恩返しをしたいと思いました。努力を重ね、自分にできる力を出し切り、精一杯生きたいです。

「迷子の手助け」

藤枝市立青島北中学校一年

延原 麗海

小さな男の子が迷子になっていた。声をかけようか迷った。もし声をかけて泣いてしまったらどうしようと思った。だけど声をかけた。まだ小さな子供だから返事はなかったので大人に言った。すると「ありがとう」と言われた。人助けは、良いことだ。

「あの日生まれた命を考える」

藤枝市立葉梨中学校三年

磯村 理未

友達と楽しく話したり、勉強したりすることは当たり前でない。生きていることも当たり前でない。とても有難いことと改めて感じた授業。一日一日を一生懸命生きて、世界の人や物を大切にし、何よりも自分を大切に生きて生きたいと思った。



「お母さんにありがとうの気持ちを」

静岡県西遠女子学園中学校 一年

中島 心如

母はいつも美味しい料理を作り、習い事の送り迎えなど私のために頑張っている。そんな母を私は尊敬している。だから母にできる限りの感謝を伝えたい。支えてくれる分、私もお手伝いをして支えてあげたい。私は母のような大人になりたい。

「慣れほど怖いものはない」

静岡県立田方農業高等学校 三年

安立 渚

八月九日の地震が起きた時、私はちょうど横浜にいた。電車内にいたため揺れは感じなかったが、スマートフォン警報が鳴り響く中で微動だにしない日本人に「慣れ」を感じざるを得なかった。こういう時に動ける人になりたい。

「自分にできること」

静岡県立伊豆総合高等学校 二年

宮崎 佑月

私がだれかのためにできることは、ボランティア活動に積極的に参加したり、困っている人がいたら、無視せずに自分には何ができるか、どうするべきかを考え行動することです。

これからは、これらのことを心がけていきたいです。

「怖いもの」

静岡県立田方農業高等学校 二年

坂本 心麗

怖かった。あまりにも小さい手足に頭、すべてが私の半分も満たさない。私の妹が生まれた。そつと抱き上げたとき、この小さくて壊れてしまいそうなものを大切にしたいと思った。

「自分らしく」

静岡県立田方農業高等学校二年

今野 姫菜

コンクリートの隙間から咲いている一本の小さな花を見つけた。コンクリートという硬いものを突き破り、一生懸命生きている一本の花はとても美しい。私もこの花のように美しく、自分らしく生きていこう。

「あたり前じゃない命」

静岡県立三島南高等学校二年

青木 凛乃

私はこども病院に年に一度通っている。最近は元気に挨拶している子や、泣いている赤ちゃんが目に入る。その度にこの子達は「生きているんだ」と感じる。病院という場所だからこそ、生きているのはあたり前じゃないと感じさせられる。

「日常の幸せ」

静岡県立三島南高等学校二年

青木 あゆみ

「いつもありがとう」身体障害者の母が私に言った。母は左半身麻痺で体が思うように動かない。母をサポートするため、毎日協力し合いながら暮らしている。これからもお互いに助け合い楽しく暮らしていきたい。いつもありがとうお母さん。

「あいさつ」

静岡県立三島南高等学校二年

水谷 真緒

「おはよう。」
友達と毎日交わす言葉。気持ちや体調、あいさつ一つでだけのことに分かるだろうか。この一言が友達を安心させるかもしれない。変化にも気づけるかも。この魔法の一言を大切にしていきたい。

「I want to be your light.」

静岡県立浜名高等学校一年

服部 七音

誰だつて悩みや不安を抱えている。僕もそうだ。でもその事を聞いて受け止めることは出来る。いや、それしか出来ない。でもそんないつ止むか分からない雨から守る傘に、いつでも来れる逃げ場所になる。それが、今の自分に出来ることだ。

「理解と認識」

相川学園静岡高等学校二年

舩井 奈々佳

障がい者の放課後等デイサービスのボランティアに行った際、公共の場に行くと周りとの違いで視線や行動から疎外感を感じた。特別に何かしてあげることが優しさとは限らない。大切なのは、偏見を超えた理解を築き上げていくことだと思う。

「命と言葉の重み」

常葉大学附属常葉高等学校一年

佐野 百萌

「おばあちゃん死んじゃうんだって」
私には理解できなかった。「死」という言葉はどこでも聞くのに親から聞いた瞬間涙が溢れた。私は喧嘩中に「死ぬ」と言ってしまうことがあるが、言うものじゃないなと実感した瞬間だった。



有功会支会長賞

※この賞は、支会が独自に表彰するものです。

伊豆の国市支会

「高齢者体験を通して」

伊豆の国市立大仁北小学校 四年

千場 小椰

お年よりの体の重たさや目の見えにくさを初めて知りました。また、全部手伝うのではなく、できることは見守ってあげること大切だと知りました。これからも、思いやりの心をもつて、せいかつしていきたいです。

三島市支会

「私にできること」

静岡県立三島南高等学校 二年

植松 心美

テレビのニュースで見た孤児の現状があまりに衝撃で、何か私にできることがあれば助けてあげたいけれど募金しかできないことに悔しさを感じました。成人してできることが増えたらその子達を助けたいです。

静岡市支会

「ほんの少しの勇氣」

静岡市立清水高部小学校 五年

本間 梨瑚

私は、発表することが苦手です。そんな私ですが、学級委員決めの時に手を挙げました。もともとやってみたかったあこがれの役でした。いざ立候補してみると、私にも票が入っていました。ほんの少しの勇氣で私に自信がつきはじめたのです。

島田市支会

「しんぞうつてすごい」

島田市立島田第四小学校 二年

櫻井 絢士

ぼくのおばあちゃんは、しんぞうの手じゅつをしました。むねには大きなきずがあります。うごくのも大へんそうです。自ゆうにあるいたりはしたりできるのはしんぞうのおかげなんだと知りました。ぼくのしんぞう、いつまでもありがとう。

最優秀賞（小学生）

「今を大切に生きる」

焼津市立焼津南小学校 四年 網野 喬太

いたい……いたくて動けない……。

今までも、おなかがいなくなることは時々あった。だけど、こんなにもいたいのは初めてだ。学校の先生も家族も、トイレへ行ったらなおるよとか言って、たいしたことないと思っているようだった。そのうち、だんだん体があつくなくてきて、ねつを計ってみると体温計の数字は四十度。びつくりした。こんな高ねつは初めてだったからこわくなった。おばあちゃんが、さすがにこれはふうじゃないと、お母さんに電話して、急いで仕事から帰ってきてもらって小児科へ行った。

「もうちようかもしれないから、そう合病院でけんさしてください。」と、いつもの先生に言われた。もうちようつてどんな病気？ねつでボーツとしていたけど、お母さんの様子からただ事ではないと感じた。

夜間のきゆう急外来はとてもこんでいて何時間も待った。ぼくよりもっと命に関わる重病の人がゆう先だからしかたないけどつらかった。けんさの後、お医者さんに、

「たぶんもうちようだから、明日のさいけんさで手じゅつするか決めましょう。今から入院してください。」

と、言われた。夜おそくてねむかったけど、「手じゅつ」という言葉だけは、はつきりわかった。テレビで見たメスでおなかを切って血が出るシーンが思いうかんでなみだが出てきた。お医者さんがぼくにむかつて、

「手じゅつすることになるけどいい？」

と、聞いてきた。早くなおりたいけど手じゅつはこわくて「うん。」と言えなかった。

次の日、もうちょうではなくて、急せいリンパ節えんという病氣だとわかった。手じゅつしなくてすんで安心したけど、初めての入院生活となった。一人ぼっちで心細いとはあまり思わなかったけど、とにかくいくつで何もすることがない一日はとても長く感じた。おなかがすいているのに、三日間食事もとれず点できだけだった。学校の給食やお母さんの料理を思い出して食べたくなって、早く家へ帰りたくてたまらなかった。

食べる、遊ぶ、ねる、学校へ行く、ぼくがふだんあたりまえにすごしている毎日を送られていることは、とても幸せなことで、その「あたりまえ」はとつぜんなくなってしまうことがあるつてことを、ぼくはこの入院生活で知ることができた。世の中には、重い病氣の人や、身体が不自由な人、戦争をしている国の人、自ぜんさいがいにあつた人など、ぼくが「あたりまえ」だと思っている生活が送られていない人たちがたくさんいる。ぼくが今、生活しているかんきようはとてもめぐまれている。勉強もサッカーもしたくてもできない子がいると思つたらがんばれる。「あたりまえ」に感しやして健康に氣をつけて「今」を大切にしていきたい。

有功会長賞（小学生）

「お母さんのかみの毛」

焼津市立焼津南小学校 二年 川口陽向汰

きよ年の夏、ぼくのお母さんは、かみの毛を四十センチ切りました。目ときは、ヘアドネーションをするためです。

ヘアドネーションとは、小にがんや白けつびょうなどのびょうき、じこでかみの毛をうしなつた子どもたちにいりようようウィッグをむしうでいきようするかつどうです。

お母さんは長かつたかみの毛を切つて「あつかつたし、みじかく切れてさっぱりしたよ。かみの毛をきふできてよかった。」とわらつて言いました。

そんな夏がおわりあきになり、お母さんにびょうきが見つかりました。びょう名は、あくせいリンパしゅTさいばうしゅ。すぐに入いんをしてこうがんぎいのちりようになりました。かたまであつたかみの毛は、こうがんぎいのえいきようでぬけはじめ、今年のお正月にはぜんぶぬけてしまいました。それでもお母さんは「あの時、ヘアドネーションをしておいて本とうによかつたね。お母さんみたいな大人のウィッグはたくさんはないからね。切つて

すてちゃわなくて、だれかのやくに立てたならよかったよ。』とえがおでいます。そしてぼくに「ひなたくんもかみの毛をのぼしてヘアドネーションをしてみる?」と聞きました。ぼくは「やってみたいきもするけど、どうしようかな?」とこたえました。ぼくはすぐには「やってみる。』とはいえませんでした。それをきいたお母さんは「やるのも、やらないのも、ひなたくんがきめることだからね。ただ、やるつてなったら三年はかみの毛をのぼさなくちゃいけない。長いかみの毛についてからかわれるかもしれない。それでもやるつていうならお母さんもサポートするよ。』といつてくれました。ぼくは「しんけんに考えてみるよ。』とつたえました。

春になり、こうがんぎいがおわつたお母さんのかみの毛は新しく生えてきて、しばふくらいの長さになりました。

夏になるころ、お母さんのびょうきがいはつしました。一年前にはこしまであつたお母さんの毛は、今はまたこうがんぎいのえいきょうでなくなっています。

それでも、ぼくのこたえはまだでてません。



事務局長賞（小学生）

「まずしい国の人たちのために」

静岡サレジオ小学校 二年 葛野 真愛

私はおりがみが好きです。おりがみのよいところは、さいしよは正方形のかみだけど、おるだけでほかの形になるところです。自分だけのオリジナルのものが作れます。

私は、「折り紙でたくさん笑顔を」という本を読みました。この本は、目の見えないかせ三ろうさんが、せかい中の子どもたちにおりがみを教えていく本です。私が心にのこったところは、アメリカの小にびよういんに行つた時に、生まれつきのおもいびよう気でりよう手りよう足がない男の子に会つた時のことです。かせさん、さいしよは出来ないと思つたけど、口でおりがみをおらせてあげました。その男の子は、出来た作品を見てうれしそうにわらつて、もつと教えてと言いました。かせさんは、男の子がちょうせんしたことを本当にうれしく思つてないてしまいました。私は、おりがみはみんなをえがおにして、うれしい気もちにしてくれるものだと思いました。

そして私も、かせさんのようにだれかのためにできることはな

にかなと思いました。それで、アフリカのまずしい国の子たちにおりがみで楽しんでほしいと思いました。そのために、おりがみをきふしようと考えました。おりがみをきふするためにはお金がひつようです。私はおりがみを買うお金をあつめるために、家のおてつだいをしました。おさらをかたづけたり、せんたくものをたたんだりして、お母さんにお金をもらって、少しずつあつめました。そのお金でおりがみを買いました。そして、おりがみをマダカスカルの子たちへきふしました。

せかいでは、せんそうをしている国やまずしい国があります。そういう国では、食べものがなくて、きれいな水がのめません。子どもたちは学校に行けません。あそぶこともできなくて、あそぶことを知らない子もいるかもしれません。私の学校では、まずしい国の人たちのために毎日朝とかえりにおいのりをしています。私は夏休みも毎日家でおいのりをしました。私はこれからも、まずしい国の人たちのためになにが出来るかを考えていきたいです。



事務局長賞（高校生）

「命をつなぐ大きな輪」

常葉大学附属常葉高等学校 一年 笠間綾

私の両親は骨髄バンクのドナー登録をしている。登録をしたんだ、と母に言われた時、私はとてつもなく大きな不安に駆られた。両親の力を必要とする人がいて手術をすることになったらどうなってしまうのか。少ない知識で最悪の事態ばかり考えてすぐにはドナー登録について受け入れることができなかった。もし、あなたの家族がドナーとして手術を受けることになったらあなたは笑顔で送り出すことができるだろうか。私はある日之境に不安な気持ちから、両親を笑顔で送り出す心構えを持つことができた。それは中学三年生のとき、父について行った献血の待合室で「骨髄バンクにご登録ください」と書かれた「チャンス」というパンフレットを見つけたことだった。そこには今までの私の思い込みが覆される様々な情報が書かれていた。例えばドナー登録者になるためには体の健康状態や年齢などの決まりがあったり、家族の協力が必要不可欠であること。誰かの役に立つため提供を考えたとしても必ずしもドナーになれるとは限らないのだ。また、過去に起きたドナーの健康被害についてのこと。どんな症状だったのか、どう対応されたのか、原因は何だったのか、細かく説明されており全てじっくりと読んでとても安心するこ

とができた。他には実際にドナーになった方々の声やドナー休暇制度や公欠制度についても記されていた。

二〇二三年度、骨髓バンクに登録した患者さん約千八百人の中で手術を受けることができた人は、一千人。およそ二人に一人が移植をできずドナーを待っている。その人たちにも、両親を心配に思う私と同じように大切な家族がいるのだ。私にできることは正しい知識を持つて助け合いの輪を広げることなのではないだろうか。「チャンス」にあったようにドナー候補者に選ばれてからも医師やコーディネーターの方がどんなことをするのかきちんと説明してくれる場が設けられる。最終同意の時も自分の意思で提供するのか選択することができる。さらに日本での骨髓、末梢血幹細胞の採取では死亡事例が一例もない。このような事実をもっと多くの人に知ってもらいたい。私自身何も知らずに自分には関係のないことだと思っていたが、ドナー登録のしおりを読んで考えを改めることができた。医療現場で求められるドナー登録者は若年層。私のように若い世代が今のうちから正しい認識をしておくことが最も大切なことだと思う。ドナー登録の条件にあつたように全ての人がドナーになれるわけではないからこそ、まずは知ることから始めよう。

私が十六歳になるまであと数ヶ月、十八歳になるまであと二年。もうすぐで私も献血の対象に仲間入りだ。あと二年もすれば骨髓バンクのドナー登録もできるようになる。

今日も誰かの勇気が命をつなげている。



藤枝市立青島小学校	5年	井口庵
藤枝市立青島小学校	5年	鈴木菜桜
藤枝市立青島小学校	5年	清水楓樹
浜松市立井伊谷小学校	6年	佐藤双葉
浜松市立井伊谷小学校	6年	大亀章裕
浜松市立井伊谷小学校	6年	糸数結月
浜松市立井伊谷小学校	6年	古橋優衣
浜松市立相生小学校	6年	林凜子
浜松市立相生小学校	6年	寺田龍ノ介
浜松市立相生小学校	6年	大場奈津実
沼津市立戸田小中一貫学校	9年	西埜輝見
沼津市立戸田小中一貫学校	9年	広崎莉子
掛川市立大浜中学校	2年	松下徹心
常葉大学附属常葉高等学校	1年	名木美菜弥
常葉大学附属常葉高等学校	1年	三宅璃步



ハートラちゃんと友達



静岡若葉幼稚園 年長
牛場 心海

ハートラちゃんと私の家族



静岡若葉幼稚園 年長
中山 葉奈



ハートラちゃんのお絵かき部門

ハートラちゃんとキャンプ



小百合キダーホーム 年長
浜田 蒼真

僕も誰かを助けたい



静岡若葉幼稚園 年長
田中 絢斗



ハートラちゃんのおうちへあそびにいったよ



小百合キナーホーム 年長
秋山 律

ハートラちゃんとシーソーであそんだよ



小百合キナーホーム 年長
小出 美宇



ハートラちゃん賞

ハートラちゃんとさくらんぼをたべよう



小百合キダーホーム 年中
臼井 千紗

ハートラちゃんとぶらんこであそんだよ



小百合キダーホーム 年中
鈴木 榮人



すなばでいっしょにあそぼ!!



焼津豊田幼稚園 年中
鈴木 朝陽

ハートラちゃん! たすけてあげる!



焼津豊田幼稚園 年中
村越 理玖



ハートラちゃん賞



てをつないでおさんぽしたよ



焼津豊田幼稚園 年中
藁科 佑衣



参加校(園)

静岡若葉幼稚園

小百合キンダーホーム

焼津豊田幼稚園

沼津市立開北小学校

沼津市立戸田小中一貫学校

富士市立吉永第二小学校

富士市立今泉小学校

伊豆の国市立大仁北小学校

静岡市立清水高部小学校

静岡市立清水興津小学校

静岡市立清水穴原小学校

静岡サレジオ小学校

静岡市立田町小学校

焼津市立豊田小学校

焼津市立焼津西小学校

焼津市立大井川西小学校

焼津市立焼津南小学校

焼津市立港小学校

藤枝市立朝比奈第一小学校

藤枝市立青島小学校

牧之原市立相良小学校

牧之原市立坂部小学校

牧之原市立地頭方小学校

学校組合立牧之原小学校

島田市立島田第四小学校

掛川市立第一小学校

浜松市立井伊谷小学校

浜松市立北浜小学校

浜松市立伎倍小学校

浜松市立赤佐小学校

浜松市立相生小学校

三島市立北上中学校

三島市立中郷西中学校

富士市立吉原第二中学校

焼津市立焼津中学校

藤枝市立広幡中学校

藤枝市立青島北中学校

藤枝市立葉梨中学校

掛川市立大浜中学校

静岡県西遠女子学園中学校

静岡県立伊豆総合高等学校

静岡県立田方農業高等学校

静岡県立三島南高等学校

常葉大学附属常葉高等学校

静清高等学校

静岡県立浜名高等学校

はじまり

子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）はJRCを創設することを決めました。

日本のJRCは、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。それから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えました。



青少年赤十字の活動例

- あいさつ運動
- 献血の呼びかけ
- 環境美化の推進
- 社会福祉施設訪問
- 海岸清掃
- 災害時の炊き出し体験
- NHK海外たすけあい募金
- 国際交流 など

JRCが大切にしていること

JRCの実践目標

健康・安全……………生命と健康を大切にする。
奉　　仕……………人間として社会のため、人のために尽くす
責任を自覚し、実行する。
国際理解・親善……………広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う
精神を養う。

JRCの態度目標

気づき……………身近な問題を発見する。
考　　え……………問題解決のための道筋や方法を探る。
実行する……………活動に取り組み、評価と反省を次へ活かす。

JRC加盟・活動のメリット

赤十字を教材に「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力（気づき）、判断力（考え）、表現力（実行する）を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実を期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために、世界中で活動する中で得た経験やネットワーク、活動を支援する支援金制度などがあります。

一緒に青少年赤十字活動に取り組んでみませんか。ご興味がある場合には、日本赤十字社静岡岡県支部までご連絡ください。

審査にご協力いただいた選考委員

選考委員

宮城島 全美

静岡若葉幼稚園 副園長

多田 五郎

静岡市立清水高部小学校 校長

佐野 正子

焼津豊田幼稚園 園長

袴田 加奈子

浜松市立赤佐小学校 主幹教諭

庄司 桜子

沼津市立開北小学校 教諭

水島 裕美

浜松市立井伊谷小学校 教諭

市川 智恵

富士市立吉原第二中学校 主幹教諭

山梨 祥子

静岡県立清流館高等学校 校長

小柳 正史

静岡市立新通小学校 校長

増井 勝彦

静岡県青少年赤十字賛助奉仕団

総評

今年度は、作品応募総数1,460点、新規参加校が23校、計49校・3園と大幅に増えました。

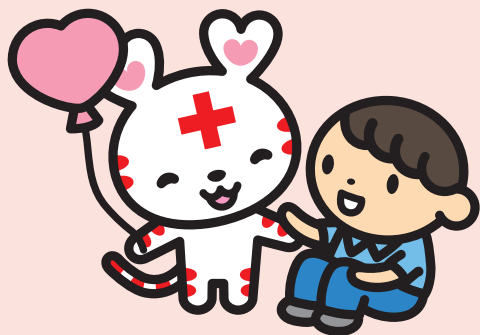
短作文・作文部門での作品の特徴の第一は、国内では能登半島地震や台風など大きな自然災害について思いを巡らし何とか支援の思いを届けたいとする内容や、世界各地で紛争や戦争が起くるなど悲惨な出来事に対して心を痛め、自分事としてとらえ、支援の思いを綴ったりする作品が多くあつたことです。

第二の特徴としては、教育活動の中で「日頃の活動」を振り返ったり、「生活科や総合的な学習の時間等での体験活動・講話等」を生かし表現したりする作品が多かつたことです。具体としては募金活動や看護師体験活動・放課後のデイサービスでのボランティア活動などが生き生きと表現されていました。

さらに「毎日書いている日記」から、日常生活の中での祖父母や友人との触れ合いを通して、人と人との絆や優しさについて感じたことなど、瑞々しい感性で表現された作品が多くありました。

お絵かき部門では、「ハートちゃんのおはなし」の絵本を何回も読んでそれぞれの子どもの達の思いが描きこまれていました。表情豊かに楽しそうに遊んでいて心温まる絵を描く年中児や、丁寧に場面を考えながら描く年長児と成長を感じられる作品が多く見られました。

これからも日々の生活の中で、感謝や思いやりを持って生活したり、誰かのために尽くし実行したりすることを大切にし、「気づき 考え 実行」していつてほしいと思います。



日本赤十字社公式マスコットキャラクターの
「ハートラちゃん」です。

■ 名前
ハートラちゃん Heartora-chan

■ 住んでいるところ
ハートランドの森

■ 誕生日
5月8日

■ 性格
苦しんでいる人を放っておけない。
おだやかな性格だが、時に素晴らしい行動力を発揮する。

■ 目標
ひとりでも多くの「苦しんでいる人」を救うこと。

■ 特技
語学(世界中の人、動物、植物と話せる)。

■ トレードマーク
生まれつきおでこにある赤い十字の模様。

■ 好きなこと
風船ブランコに乗って空をお散歩すること。

■ 好きな食べもの
ハート形のさくらんぼ

■ 心の友
ハトのハートちゃん



日本赤十字社 静岡県支部
Japanese Red Cross Society

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17 TEL 054-252-8131 FAX 054-254-5830



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。